学校番号	3025

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	(学)総合芸術(書道)	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	自主教材						
副教材等	自主教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

古典や古筆の臨書や実用書の練習・実践を通して、様々な書の表現を習得します。また、身近に存在する書作品の鑑賞や、制作作品の相互鑑賞もすることで、芸術的感性を高め個性豊かな表現力を育みましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
古典や古筆の臨書、実用書の練習により、様々な書の技術や表現方法を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】
臨書活動や実用書により習得した技術を、自らの作品の適所へ落とし込み、表現する。

【学びに向かう力、人間性等】
自身または相互の作品の鑑賞・振り返りを積極的に行い、それらにより得た改善点を、常に作品に活かそうとする。また、合作では自身の役割を理解し、周りとの調和を大切にしながら取り組む。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・書の表現方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基本的名技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感受したうえで意図に基づいて構想し、表現の工夫を行う。また書の伝統や文化を理解し、その価値を考え、書の美を味わっている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	実用書(芳名帳、のし袋の	小筆を使い、自身の名前を様々な書体で書く。また、芳名帳やのし袋の書き方を学び、結婚式の受付という場面設定し、実演する。	a:小筆の基本的な持ち方、使い方を習得している。 b:楷書・行書・草書を使い、それぞれの特徴を活かした表現ができている。 c:芳名帳・のし袋・記帳の作法を学習し、実演できる。	作品	作品	振り返りシート 相互評価記録
	臨書作品制作	〈鑑賞〉 古典の学習を通して、基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ。 作品の相互批評。 〈表現の構想〉 それぞれの選択した古典や古筆の基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。 〈作品の完成〉 それぞれが選択した古典・古筆の臨書作品を制作する。その際、書体に応じた用筆・運筆、字形や全体の構成を工夫しながら表現する。	a: 様々な書体と作品のイメージを結びつけ自らの作品に表現している。 b:それぞれ選択した古典・古筆の運筆方法を身につけ、表現している。 c:相互に鑑賞・批評し、各々の作品に活かしている。	作品	作品	作品 相互評価記録
2	篆刻	それぞれの臨書作品に応じた篆刻の製作	a:印刀の基本的な使用方法を身につけ、表している。 b: 様々な印影を鑑賞し、印の表現方法を味わっている。 b:篆刻における分間分白を理解し、表現を工夫している。 c: 名前の書体を調べ、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。	文字調べシート 作品	作品	振り返りシート

	手紙の書き方	お世話になった先生方へ手紙を書き、手紙の書き方を学ぶ。	a:手紙・封筒の書き方を学び、ボールペンを使った書写の技能を習得する。 b:手紙に適した美しい文字の書き方を工夫し、表現している。 c:お世話になった先生とのエピソードをもとに、読み手に伝わる内容になっているかなど、文章作成に意欲的に取り組む。	作品	作品	振り返りシート 相互評価記録
3	卒業書作展	創作作品制作 校内展示 相互批評会	a:様々な書体と作品のイメージを結びつけ自らの作品に表現している。 b:自身の作品のイメージに合うように表現を工夫している。 b:文字や文章の意味やそれらをイメージさせる様々な表現方法を味わっている。 b:互いの作品を鑑賞し、それぞれの作品の意図や表現方法を味わっている。 c:用具用材や墨色の違いによる表現の方法に関心を持ち、積極的に表現技法を高めようとしている。 c:文字の選定、作品の構想、完成に至る創作活動について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。	制作案シート 作品	作品	振り返りシート 相互評価記録

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度